


指導資料

家庭科、技術・家庭科(家庭分野) 第49号

 鹿児島県総合教育センター
令和2年10月発行

対象
校種

小学校 中学校
義務教育学校
特別支援学校



教科内や他教科等と学習内容の関連を図った授業設計の工夫 —C消費生活・環境の授業実践を通して—

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)は、学校で履修学年・授業時数を工夫し、地域や学校の実態、生徒の興味・関心や学習経験を踏まえて、題材を設定することができる。このような教科の特質を生かし、教科内や他教科等と学習内容の関連を図ることで学習効果を高める授業の工夫を紹介する。

1 質の高い学びを目指して

(1) 学習内容の関連を生かした題材設定

小学校家庭科は、今回の指導要領の改訂で学年の目標ではなく、2学年間の目標に変更された。指導計画を作成するに当たって、これまで以上に、2学年間を見通した題材の配列が必要になる。また、中学校技術・家庭科では、3学年間を見通して、指導計画を作成する。そのため、指導計画を立てる際は、履修学年も含め、系統性や適時性を考え、扱う時期や順序を他教科等や技術分野と関連させたり、家庭分野の中での組合せを工夫して題材設定をしたりすることができる。家庭科、技術・家庭科は、題材設定や指導計画の工夫次第で、学習効果を高め、実生活に生きる質の高い学習にすることができるため、現代的な諸課題に対して求められている資質・能力の育成を目指すに当たって期待できる教科とも言える。

(2) 授業の効率化

学習指導要領の改訂で充実が図られた内容の指導や児童生徒が具体的な実践を通して課題を解決する学習過程を通して資質・能力を育む授業をするに当たって、「授業時間が足りない」、「授業の準備に時間がかかる。」などの悩みを抱えている授業者の声も多い。しかし、他教科等と重なる内容を授業者が把握しておくことで共通の資料を活用や重複する説明の簡素化ができるだけでなく、多角的に考えさせるなど効率化を図ることができる。例えば、以前は家庭分野の学習でよく行われていた衣服の繊維の燃焼実験が理科の教科書に記載されている(表※)。担当教諭と連携し、重複した実験を避けたり、科学的な視点は理科で学び、感覚や実用性などの視点を家庭分野で学ぶなどの多角的な学びを行ったりすることもできる。また、児童生徒は、別の教科で使用したワークシートや資料を他の授業でも活用することで、学びの有用性を感じることもできる。

このように、教科内の学習内容や他教科等との関連により学習効果が上がる題材を設定して指導計画を立てることができれば、これまで以上に児童生徒の学習への関心や有用感を高めることができると考える。

そこで、家庭分野だけでなく、技術分野や他教科等と関連を図った実践例を紹介する。



写真 既習事項や家庭分野以外の学習を活用して学習する生徒

2 教科内や他教科と学習内容を関連させた授業実践

実践例 2年生 題材：「適した選択ができるかしこい消費者になろう」

「C 消費生活・環境」 (2)消費者の権利と責任 イ自立した消費者としての消費行動の工夫	
関連させる内容	① 「B 衣食住の生活」(3)日常食の調理と地域の食文化 ア(7)用途に応じた食品の選択 ② 「C 消費生活・環境」(1)金銭の管理と購入 イ情報を活用した物資・サービスの購入 ③ 「C 消費生活・環境」(2)消費者の権利と責任 ア消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響 ④ 技術分野「A 材料と加工の技術」(3)社会の発展と材料と加工の技術 ア生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 イ技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 ⑤ 社会科「公民的分野 B 私たちと経済(1)市場の働きと経済」イ(7)個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現すること
関連の意図	①：前時の加工食品（本時はオレンジ味のジュース）の原材料等の表示の重要性を学んだワークシートを活用して、批判的思考を働かせて、複数の視点で商品を選べるようにする。 ②③⑤：購入することは、投票と同じであり、今後の社会の形成に影響を及ぼすということの自覚を高める。 ④：技術分野のワークシートを資料として活用し、包装容器の資源についても考えられるようにし、持続可能な社会の構築についての視点も与える。 ⑤：3年生で学習する教科書を提示し、互いの学習の相乗効果を狙う。

(1) 本時の目標

- ① 商品を選択するために必要な情報（目的・原材料・食品添加物・栄養成分・マーク・環境への影響など）を収集・整理し、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫して選択することができる。
- ② よりよい生活の実現に向けて、商品の選択における課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実現しようとすることができる。

(2) 本時の実際

		主な学習活動（学習内容の関連の手立てと意図）	
前時まで（参考）	技術分野	○ 技術分野の学習で、食品の容器によく使用される材料（ペットボトル、スチール缶、アルミ缶、びん、紙パック）について、原料、加工にかかるコスト、リサイクルのしやすさを比較する授業を行い、本時で活用する。 アルミ缶：熱を通しやすい、加工しやすい、電気を通しやすいなど、材料の特徴を整理 材料ごとに原料の特徴、加工にかかるコスト、リサイクルのしやすさの3つの視点で分析 持続可能な社会の構築のために有効な順に材料を並べる。	<p>図1 技術分野ワークシート「材料と加工の技術」</p>
	家庭分野	○ オレンジ味のジュース（果汁100%の紙パック、果汁100%産地直送のびん、果汁25%のペットボトル、果汁なしのアルミ缶等）を品質表示や価格で比較する授業を行い、本時で活用にする。（技術分野と類似するワークシートを作成） 原材料や価格、産地や商品のこだわりなど、表示で商品の特徴を分析する。 自分の価値観に照らし合わせて、買いたい商品を並べて、理由を記入する。 内容量や利便性などを考え、容器が違う場合のジュースを買いたい順に並べて理由を記入する。	<p>図2 家庭分野ワークシート「加工食品の選択」</p>
過程	主な学習活動	形態(分)	学習内容の関連の手立てと意図（本時）
本時	1 前時の学習を振り返る。	一斉 (2)	1 前時の学習（加工食品の表示）の板書とワークシート、技術分野（材料と環境の関わり）のワークシートを見られるようにし、既習事項を振り返ることができるようにする。
	2 加工食品を選ぶための視点を考える。	一斉 (3)	2 学習（前時、技術分野等）を振り返らせることで、これまでの生活で商品選択の視点（味や値段）としていたものの他にも大切な視点があることに気付くようにする。
生活の課題発見	気付き		P1：おいしいだけでなく、健康のためにも砂糖の取り過ぎにも注意できたらいいな。 P2：好きだからといって、毎回同じものばかり買っていてはよくないのかな。 P3：同じジュースなのに容器の種類が多いものと少ないものがあるのはどうしてだろう。

解決方法の検討と計画
課題解決に向けた実践活動
実践活動の評価・改善
終末
家庭・地域での実践

3 本時の学習課題を設定する。	一斉 (3)	3 本時の学習の見通しをもたせることで、これまで以上により選択をしようという意欲を高める。
-----------------	--------	---

加工食品を今までより上手に選べるようになるにはどうすればよいだろうか。

「おいしそう」、「安い」だけでなく、他のことも考えて、今までより上手に加工食品を選べるようになりたいな。

4 前時の視点に新たに視点を加えて場面に応じた加工食品の選択について考える。	個 (8)	4 前時の「加工食品の表示」に加え、既習事項の「商品の購入は投票と同じことである」ことや技術分野の「材料と環境とのかかわり」の視点を思い出させ、個人の購入が社会を動かすことを自覚して商品を選択させることで、考えを深められるようにする。その際、公民的分野の教科書も資料として活用できるようにし、他教科との関連に気付かせ、他教科でも生かせるようにする。また、ベン図を使って考えさせることで考えを構造化しやすくする。
--	-------	---

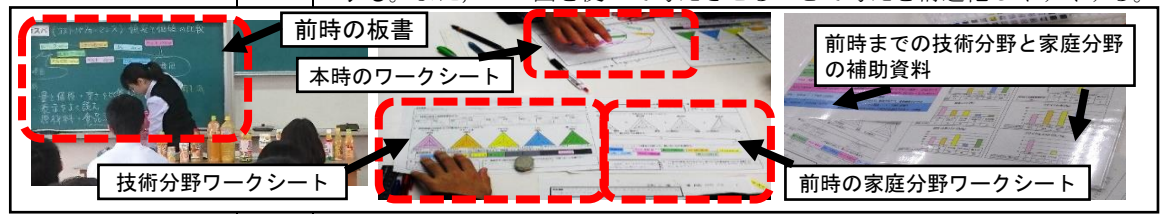


図3 既習事項を振り返るための工夫

5 個で考えたことを基にグループで場面に応じた加工食品の選択について考える。	グループ (18)	5 場面を「友人宅で勉強会の時」、「健康のために毎日」、「公園で遊ぶ時」の三つに分け(3班・3班・2班)、それぞれの場面に応じた最適解をグループで話し合わせることで、目的に応じた選択を行う必要性に気付かせる。 また、個人で考えたワークシートと同じベン図を大きくしたシェアボードを使って、一人の考えを先に説明させてからグループで話し合わせることで、他の人が同意や質問などを重ねて発言しやすいようにする。
--	-----------	---



図4 既習事項を振り返るための工夫

納得
P1: 中身が同じジュースなら、容器の種類のことも考えて選べるといいね。
P2: 重要視したい視点が違うと、1番いいと思うオレンジジュースが変わってくる。
P3: 今まで、好きな味のジュースばかり買っていたけど、他の視点からも考えてみると、もっといい選び方ができるようになれそうだ。

6 話し合ったことを発表し合う。	一斉 (7)	6 全部のシェアボードを壁に掛け、三つの場面を比較できるようにし、違う場面では別の最適解があることに気付かせ、多面的に考えられるようにする。
------------------	--------	--

7 本時を振り返り、まとめる。	一斉 (4)	7 変化した考えを技術分野や家庭分野のワークシートやシェアボードで振り返らせることで、加工食品を上手に選択するために大切なことについて、多角的・多面的に考える必要性や自分の考えの深まりに気付けるようにする。
-----------------	--------	---

生徒のまとめ
加工食品を選ぶときは、人、目的、状況によって、適した商品が違うので、
・自分の価値観を高め、いろいろな角度から考えて選択する。
・場面に応じて目的に合った内容や容器の加工食品を購入する。
・今日の個人の消費が未来を変えていく意識をもって、産地や資源などのことも考えた上で、総合的に判断できるようになる。
など、情報を収集・整理することで、これまでより上手に選択できる。

8 他の加工食品の表示や容器の特徴を知る。	一斉 (2)	8 調理実習で使用する味噌など他の加工食品の表示や容器の特徴を知らせ、どの加工食品においても本時の学習での考え方を生かして、他の授業や生活の中でも目的に応じた選択をする必要があることに気付かせる。
-----------------------	--------	--

意志
P1: 原材料やリサイクル方法など、これまで見ていなかった表示もちゃんと見て選びたい。
P2: 迷わずペットボトルを買っていたけれど、容器の資源のことを考えると、家族で飲んでるオレンジジュースは、紙バックを買った方がいいな。
P3: オレンジジュース以外の加工食品もどんな表示や種類があるかを見て、目的に応じて選べるようになりたい。

9 個人の行動目標を記入する。	個 (3)	9 本時の学習を振り返らせて、学習前の自分と学習後の考えの変容に気付かせ、今後の自分の行動をどう変えていくのが分かるように具体的な行動目標を記述できるようにすることで、実践に移しやすくなるようにする。
-----------------	-------	--

(3) 授業後の声

技術分野や社会科の担当者からは、「自分の教科でも家庭分野の学習内容を生かすことができ、説明がしやすかった。」、生徒からは、「他の教科の学習を生かせることが分かり、他の授業でも、自分で見付けて生かしたい。」という感想が多く得られた。

3 教科のよさを生かした授業改善

学習指導要領（平成 29 年告示）解説技術・家庭科編には、前回（平成 20 年）の改訂の成果として、「普段の生活や社会に出て役立つ」、「将来生きていく上で重要」など、児童生徒の学習への関心や有用感が高いことが挙げられている。また、学習内容が他教科や総合的な学習の時間、学校行事等と関連するものが多く、題材設定の際にも、他教科等との関連を図ること

や関係する教科等のそれぞれの特質を踏まえて連携を図ることができるものにする必要があることも示されている。履修学年や授業時数を地域や学校の実態に応じて、学校ごとに設定できるという教科の強みを生かし、より効果的な題材を設定していきたい。

そこで、教科内だけでなく、他教科等と関連させやすいという教科のよさを生かしながら、題材や指導計画を作成できるよう、以下に関連させやすい学習内容の例を挙げた。下記以外にも、A(1)自分の成長と家族・家庭生活を道徳科や特別活動の進路学習と関連させたり、B(3)日常食の調理と食文化を総合的な学習の時間の郷土教育と関連させたりするなど、学習内容をより自分事として捉えやすくする工夫も考えられる。また、地域行事と関連させることで、地域との交流を深めることもできる。

表 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）と関連させやすい他教科等の内容の例

	家庭科・技術・家庭科（家庭分野）の内容	関連させることのできる教科等（例）
家庭科	B(2)調理の基礎	理科 6年生B(1)人の体のつくりと動き(食べ物の消化・吸収・排出)
	B(2)調理の基礎(ごはんと味噌汁)	外国語 話すこと〔やりとり〕(和食について説明する活動)
	C(1)物や金銭の使い方と買い物	学校行事 修学旅行(計画的な購入、産地、文化等)
技術・家庭科(家庭分野)	B(1)食事の役割と中学生の栄養素の特徴 (2)中学生に必要な栄養を満たす食事	理科 第2分野(3)生物の体のつくりと働き
		保健体育 保健分野(1)健康な生活と疾病の予防
		特別活動 学習活動(2)食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣
	B(4)衣服の選択と手入れ	理科 第1分野(7)科学技術と人間(さまざまな物質とその利用)※
	C(1)金銭の管理と購入	社会 政治や経済、地域の自然災害
C(3)消費生活・環境についての課題と実践	理科 第1分野(7)科学技術と人間	
	理科 第2分野(7)自然と人間	

4 おわりに

私たちは、生活の中で様々な選択をし、その最適解は状況によって変わる。課題を解決したり、最適解を導き出したりする一連の学習過程で、答えだけでなく考え方を学ぶことは、予測困難な時代を生きる児童生徒にとって重要であると考えます。そのため、授業者がカリキュラム・マネジメントの視点で、「どの学習内容と関連させればよいか。」、「どの教科等と関連させることができるのか。」などを考え、自分の学校の児童生徒にとってより効果的な学習になるよう熟慮して題材を設定したり、学習計画を立てたりすることは必要な努力であると言える。

小学校は、担任が複数教科を担当するため、教科等横断的な計画が比較的立てやすいが、中学校は他教科の教科書を開く機会は少ない。今

回の改訂で、技術・家庭科の学習指導要領解説にはこれまで以上に他教科等との関連を多く記載してあり、新しく採択される教科書には、他教科等との関連が多く示されている。また、小・中・高等学校の系統性も明確化され、中学校の教科書には、小学校の学習との関連がマークや補足で示されている。中学校でも、他教科や小学校の教科書を参考にしながら、地域、学校、生徒の状況に最適と思われる題材設定や指導計画を工夫することで、より高い学習効果を生み出し、質の高い学びにつなげてほしい。

— 引用・参考文献 —

- 文部科学省「中学校学習指導要領解説技術・家庭編」, 平成 29 年
- 岸田蘭子著『先生も子どもも楽しくなる小学校家庭科授業づくりの理論と実践』2020 年, ミネルヴァ書房
- 杉山久仁子著『中学校新学習指導要領の展開技術・家庭家庭分野編』, 2017 年, 明治図書
- 鹿児島市立伊敷中学校研究公開指導案, 2018 年 (企画課 精松 真由)